

松 沢 成 文

○松沢成文君 無所属の松沢成文でございます。

法案の質問に入る前に、今日はせっかく遠藤担当大臣に来ていただいているので、この東京五輪大会を成功させるために、現在の組織委員会の在り方について質問をさせていただきたいと思えます。

昨年のスポーツの最大のビッグニュースというのは、やはり何といってもFIFA、国際サッカー連盟の汚職事件が表に出てきたことだというふうに思います。最初はスイスの司法当局が捜査をしておりましたが、これ司法取引で事件化されませんでした。しかし、その後、アメリカの連邦捜査局、FBIの捜査の後、アベランジェ前会長ら多数の幹部が二〇〇〇年前後における収賄による不正利得罪などで米司法当局によってかなりの人数が起訴されました。この賄賂の総額は一億五千万ドル、日本円に換算すると大体百八十五億円以上、大変な賄賂ですね、とされまして、実は自身も関与の容疑を掛けられているブラッター前会長、アベランジェさんは元会長ですね、ブラッター会長もその後辞意を表明して、今アメリカの裁判にも証人として呼ばれている、こういう状況であります。

さて、遠藤大臣、当初この捜査を担当したスイスの検察官から尋問を受けたという人間の中に東京五輪組織委員会の理事が含まれているということを御存じでしょうか。

○国務大臣（遠藤利明君） 尋問を受けたということについては承知しておりません。

○松沢成文君 スイスの検察官から質問を受けたんですね、尋問というか質問というか。これは、実は電通の元専務で、株式会社コモンズ代表取締役会長の高橋治之氏、実は組織委員会の理事を務めているんですね。

このFIFA汚職事件の裏金の出どころというのが、これはスポーツ用品メーカー、アディダスと電通が半分ずつ出資して一九八二年に設立した、スイスに本社を置いているISL、インターナショナル・スポーツ・メジャーという会社なんですね。実はこの高橋氏は一九九三年に電通のISL事業局長に就任しています。

今回、FBI摘発のきっかけとなったのが、実はイギリスのジャーナリスト、アンドリュー・ジェニングスさんによる捜査報道があつて

F B I が動いたんです。この内容が、日本でも今年の十月に発売されました、これ文芸春秋ですね、「F I F A 腐敗の全内幕」という本にまとめられております。

実は、この本の中では、F I F A の本部があるスイスでの裁判に触れる中で、四百万スイスフラン、日本円にして約四億円もの大金が I S L のダミー会社の海外銀行口座から高橋氏に渡ったと記されております。また、この事件を暴き出したとされるジェニングスの同僚記者、タンダ記者は、後に日本の月刊誌のファクタの誌上で、裁判で明らかになった裏金の送金リストなどと併せて、高橋氏が実質的オーナーである香港のギルマーク・ホールディングスに送金されているということの詳細に報じております。まあ、高橋氏はこのことは否定をされておりますがね。

遠藤大臣、この組織委員会の理事を務めている高橋氏にこうした疑惑が掛けられているということは御存じでしたか。

○国務大臣（遠藤利明君） 今雑誌でそういう記事が出ていた、また、日本の記事にもそれが出ていたという話ではありますが、そうした疑惑があったということについては承知しておりません。

○松沢成文君 さらに、このファクタに掲載されたこういう記事がありました。「電通の F I F A 「贈賄」密約」と題する記事において同誌が入手した極秘文書について触れられております。これは、電通と I S L が締結したサービス合意書という文書のことではありますが、何と驚くことに、その内容は、二〇〇二年日韓ワールドカップ招致の際に F I F A の理事を買収するための買収契約だったというものであります。しかも、この契約書には電通側連絡先窓口として高橋氏の名前が記されております。具体的な内容としては、I S L が F I F A の理事に八百万スイスフラン、約八億円を賄賂として支払って、ワールドカップの単独開催国に、日韓開催に結果なりましたけれども、日本が選ばれるように工作資金、賄賂を送ったというものなんですね。

実は、この件については、今年の二月に出版されましたこの本です、「電通と F I F A サッカーに群がる男たち」という本の中で、高橋氏も実はこの契約の存在を認めているんですね。何と言っているかというと、まあ驚きました、もう時効だからいいかなと言って切り出して、当時電通が有していた I S L の株式四九%のうち三九%を電通から I S L に高額で売却して、その売却益から八億円を二〇〇二年ワールドカップ日本招致のための活動費、つまり I S L への工作資金として渡したということも認めているんです。

実は、昨年の十月にも、高橋氏があるテレビ制作会社をトンネルにしてF I F Aのブラッター前会長に賄賂を渡したことをF I F Aのチケット販売会社が公言をしているんですね。ひょっとしたらこれももう捜査の対象になっているかもしれません。

大臣、オリンピックの組織委員会の理事の中に、こうやって堂々と不正を明言するような人間、あるいは海外の司法当局、捜査当局から調査対象になるような人間、一時こんな言葉はやりました、疑惑の総合商社のような人間、こういう人間を組織委員会の理事にとどまる、これ許されるんでしょうか。

高橋氏は任期は今年の六月までです。この任期を待たずしてもう一刻も早く、こうした国際的な司法機関から捜査の対象になるような疑惑だらけの人間が組織委員会にいるということは、もしかしたらこれ、捜査が進んでいったら組織委員会全体が世界から何なんだと思われまますよ。

この人事はきちっとやっていただきたいと思うんですけども、担当大臣、いかがでしょうか。

○国務大臣（遠藤利明君） 今御指摘ありました高橋理事が捜査の調査対象になっているかどうかについては承知しておりません。

元々公益財団法人である東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会の理事については評議員会の決議によって選任されるものであり、理事会を構成し、法令及び定款で定めるところにより職務を執行することとされております。

高橋理事については、二〇一四年六月に大会組織委員会の理事に就任し、職務を遂行されているものと承知しておりますが、大会組織委員会の人事については大会組織委員会自身が決定するものと考えており、政府として今、理事個人、個人についてお答えを申し上げる立場にはありません。

○松沢成文君 もし、組織委員会の理事にこんな疑惑だらけの人がいて、もしこれが事件化されたりしたら、これ、組織委員会全体が問われるわけですよ。

それで、大臣の職務、こう書いてあるんですね。オリンピック大会・パラリンピック大会の円滑な準備及び運営に関する施策の総合的かつ集中的な推進をするのが大臣なんです。だから、これは組織委員会マターですから組織委員会でやってもらわなきゃ、私、関係ありませんなんて、これ、許されないんです。こういうことをきちっとやらないとオリンピックが成功できないんですね。

ですから、大臣、この高橋氏についてきちっと、大臣なり、調査をして、あるいは大臣がやらないのであれば組織委員会に、こういう指摘が国会であったと、大丈夫なのか、きちっと調査して疑惑があるような人間だったらきちっと切りなさい、そうやって総合調整すべきじゃないですか。

○国務大臣（遠藤利明君） 先ほど申し上げましたように、高橋理事が捜査の調査対象になっているかということについては承知をしております。何よりも、職務を執行するこの理事につきましては組織委員会自身が決定するものであると考えておりますから、政府としては今お答え申し上げる立場にはないと思っております。

○松沢成文君 次に、私は、前回の委員会でも質問申し上げましたが、組織委員会の会長である森喜朗会長について、担当大臣の認識を伺いたいですね。

まず、森喜朗会長、これまで頑張ってこられたと思います。私は人格攻撃する意味は全くありません。しかし、現在七十八歳という高齢であります。そして、肺がんの手術を受けるなど健康上の問題も抱えています。そして、本人も二〇二〇年の大会を前に辞任する可能性も示唆しているんですね。こう言っています。もう一年でも二年でもいい、毎日全力投球する、二〇二〇年まで頑張りたいという気持ちがあるが、そういう大層なことは考えていないというんですね。

これ、ただ、大会を間近にして辞められるほど一番組織運営上困ることないですよ。もし自分の体力に自信がない、自分は二〇年まで務める気持ちがないというのであれば、早く退いて次の会長に譲って、盤石な体制をつくっていくべきじゃないでしょうか。

ですから、今の森会長の存在は、東京五輪準備の継続性、あるいは完結性、持続可能性に大きな不安を抱えることになるという私は危機管理上の問題があると思いますが、大臣はいかがですか。

○国務大臣（遠藤利明君） まず、新国立競技場やエンブレムなどをめぐって国民の皆様から大変厳しい御意見をいただいたことについては、真摯に受け止めなきゃならないと思っております。

また、昨年十一月に閣議決定したオリパラ基本方針もあるとおり、二〇二〇年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の成功に向けては、大会の運営主体である大会組織委員会はもとより、開催都市である東京都や政府を始めとする関係者が一体となって取り組んでいくことが重要であると思っております。このため、政府代表であるオリパラ大臣、組織委員会の森会長、東京都の舛添知事の三者が三月三十

一日に会談を行ったところであり、今後、定期的に直接会談をし、情報を共有するなどの取組を通じ、大会の成功に向け関係者が連携して取り組んでいくよう努力をしていく所存であります。

今、森会長についてお話がございました。昨日、エンブレムの発表会におきましても、IOC副会長であり、調整委員会のジョン・コーツ委員長ほか、役員の方皆さんおいでになりましたが、IOCと組織委員会の大変強い信頼関係があると思っておりますので、私からその組織委員会の人事についてコメントする立場にありませんし、組織委員会の人事については大会組織委員会が決定するものと考えております。

[○松沢成文君](#) 政府というよりも、大臣の私は認識をお聞きしたいんですけれども。

今大臣、いみじくも触れられました新国立競技場の建設問題ですね、これも実は森会長が最後まで当初案にこだわったというのは、いろんなところから情報が出ております。有識者会議の最後の会議でも、なぜこの案じゃいけないのだということをどんとぶって、ほかの人たちから一切それに対する批判が出ないで、なあなあとその会は閉じられてしまったということもあります。

それから、エンブレム問題でも、組織委員会の組織の密閉性というか、やらせ投票までやって、どうにか自分たちの意向に沿う案を作ろうとしたなんということも赤裸々になりました。

さらには、聖火台の設置問題も、これはJSCがやるのか、文科省、JSCがやるのか、あるいは組織委員会がやるのか。両方とも全く忘れてしまっていて、指摘されて初めて、どうしようか、みんなで総合調整して頑張りますと。これも私は、組織委員会の大きなミスだと思いますよ。

さらには、先ほど御指摘ありました大会運営費についても、もう何が何だか分からない。最初は三千億だと言っておいて、五千億ぐらい自分たちで集められるだろうと。でも、七千億ぐらい掛かりそうだ、いや、一兆は超える。こういうことを言っているわけですね。

私は、こうした不祥事やミス、失敗、この責任は、やはりトップである森会長が負わざるを得ないと思うんですよ。普通の組織だったら、ここまで失敗を繰り返していたらトップは辞任です。それを全く、みんなで傷口なめ合って、総合調整して協力してまいりますと。こういうことをやっているからまた大きなスキャンダルが起きるんじゃないですか。

私は、以上四つの問題について、森会長の組織のトップとしての責

任はある、私は辞任がふさわしいと思いますが、大臣はいかがですか。

○国務大臣（遠藤利明君） 組織委員会が結成をされて以来、森会長を中心にして、大変な御努力をいただいております。今、松沢委員から御指摘がありましたように、課題、エンブレムの問題やらあるいは新国立競技場の問題、いろいろありました。しかし、そうした中でも、東京都あるいは政府が組織委員会と一体となって、場合によってはそうした失敗があつて、それを皆さんで共有しようというような活動しながら今日まで来ておりますし、先ほど申し上げましたIOCとの信頼関係も大変強いものがありますし、私は十分責務を果たしていらつしやると思っております。

○松沢成文君 もう一点指摘します。

森会長の問題をもう一点挙げれば、やはりメディアの皆さんに対する恫喝があると思いませんか、私は。

実は、このスポンサーシップをめぐっても、メディアの皆さんにも協力いただきたいということをお願いしているんですね、組織委員会から。それは当然だと思います。実は東京中日新聞にもお願いしようと思つているんでしょうけれども、森会長は、東京新聞は新国立建設問題などで批判的に書いているからけしからぬと、組織委としては五輪に批判的な東京新聞は外して中日新聞だけと契約したいと、こういうことも言っているんですね。これに対して中日新聞の小出会長は、冗談じゃないと、報道の自由とスポンサー契約は関係ないんだと。これは正論だと思います。

これを収める、このけんかを収めるために武藤事務総長がまた東京新聞の幹部に会つていろいろ言う中で、やはりこう言っているんです。スポンサーが五輪を批判するのはおかしいと。もうこれも恫喝だと思いますけれどもね。

皆さん、メディアというのは、その政府あるいはオリンピックの準備、様々な角度から分析して、おかしいということはおかしいときちつと言うのがメディアの役割ですよ、ここを改めるべきだと。そのメディアに対して、国立問題で批判するようなメディアはおかしい、そんなやつはスポンサーにさせないんだ、こんなことを言っちゃったらもうメディアの皆さんは萎縮しちゃいますよ。つまり、森さんを、組織委員会を、あるいは今のやり方を批判したら自分たちはいじめられる、外されると思うからです。

その上、組織委員会の会長というのは放映権をどこに決めるかと全部権限握つているんです。ですから、各テレビ局は、みんな人気スポ

一つの放映権を取りたいんですよ。そのためには、組織委員会の会長に嫌われたらおしまいだから、何の批判もできずに萎縮しちゃっているのが現状ですよ。なぜこうなっちゃうのか。

もう両大臣おりますけれども、両大臣とも森会長と非常に親しいと思います。絶対権力が長くあり過ぎるんです。森さんは、スポーツ界、体育界に君臨してきて、確かに実績も残していると思いますが、今も全部自分のやり方でオリンピックもスポーツ界もやってみせるという自負が逆に出て、私は、長期権力が、ずっと絶対権力が長期化することによって腐敗してきていると言わざるを得ないんですね。ですから、今、森会長に対して誰もいさめることができません。両大臣だって全然いさめることができません。国会でもほとんど意見が出ません。メディアは萎縮しちゃっています。官界の皆さんは黙っているのが一番いい。こうやって暴走が始まって汚職につながっているんじゃないですか。

両大臣に最後に、私は、森会長の問題点について三つほど指摘させていただきましたが、それに対して、それでも森会長じゃなきゃオリンピックはできないんでしょうか。新しい人心一新が求められていると思いますが、いかがお考えか、一言ずつ伺いたいと思います。

○国務大臣（遠藤利明君） まず、先ほどのメディアに対する対応につきましては詳しく承知をしておりますが、これは、馳大臣も私も森会長と長いお付き合いですが、大変細やかな気遣いをされ、また、大変配慮をされる方でいらっしゃるから、ややもすると受け止め方が、違った受け止め方をされるときもあるかなと思っております。

しかし、このオリンピック招致から、そして組織委員会ができて、これまでの運営、それも、今いろいろ批判が多いということがありましたが、それ以上に、IOCを始めそうした皆さん方の信頼がしっかりあって、そしてその仕事をなされているということですから、私は森会長の仕事を評価させていただいております。

○国務大臣（馳浩君） 私は、長いお付き合いの中で何度も森会長とはぶつかっておりますので、そのことを踏まえながら今の委員の御指摘にお答えしたいと思っておりますけれども。

委員も、恐らくいろんな局面局面において直接森会長とお話をしたり意見交換をしたりしながら今申し上げたようなことをおっしゃっているのではないと思います。報道を通じて、あるいは一方的な評価を踏まえて、今おっしゃったようなお考えを構築されてお話をされているのではないのかなと思っています。

私も遠藤大臣も週に一度、ないしは二週間に一度ぐらいは直接意見交換をしながら問題点をまず共有をし、そしてどうしていけばよいのかという建設的な議論をしながら進んでいるということをまず事実関係をお伝えいたしますが、その上で、やはりオリンピックを開催するということは、まず東京都の立場、そしてI O Cの立場、なかんずく運営に当たってはI O CやI P Cの立場、そして、我が国においてはJ O C、J P Cの立場と、これらが主体的に動いていく中で政府がどこまで応援することができるのかという、複雑な方程式を解いていくような準備段階であり、ましてや組織委員会に集まっている人たちは、最終的には七千人とも言われておりますけれども、現状では今七百人前後だと思いますが、徐々に徐々に多くの方々が関わってくる。

そういう方々に、やっぱり今、組織委員会として抱えている問題意識を持ちながらそれを最終的に一つの方向に導いていくという意味において、私は、細やか過ぎる言動というか配慮をしておられますけれども、森会長のキャラクターと、そして国際的な信頼、これはやはり誰もまねできるものではないと思っておりますし、健康に気を付けながら、きちんと二〇二〇年のパラリンピックの閉会式が終わるまでしっかり務め上げていただきたいと思います。

[○松沢成文君](#) 終わります。